

## 研修報告書 No. 7

所 属： 三豊総合病院

研修先： 特定医療法人長生会 大井田病院

医療法人聖真会 渭南病院

宿毛市立沖の島へき地診療所

2019年5月7日から5月31日の間、大井田病院で2週間、そのうち2日間を沖の島へき地診療所、また渭南病院で2週間研修をさせていただきました。

私の勤務する三豊総合病院もいわゆる地域医療にも携わっている病院ですが、幡多地域はさらにへき地で周囲の地域との交通アクセスも整備されきっておらず、いかに医療を成り立たせるかが課題であり、より深く地域医療について考えねばならないような地域でした。

大井田病院は、近くに地域の中核病院があるため比較的病院間の連携が取りやすい地域にあり、中核病院から慢性期に入った患者さんの受け入れや、自宅・施設で普段過ごしている方の緊急時の受け入れを行い、できるだけ中核病院をパンクさせずに周りの医療機関と協力しながら地域を支えている病院でした。内科・外科・小児科・救急外来や訪問診療・訪問看護、地域の乳幼児健診、手術など幅広く診療に携わらせていただき、地域医療を行うにあたって様々な科の幅広い知識が必要であることを痛感しました。訪問診療で患者さんのお宅にうかがった時は、患者さんの生活環境や自宅で過ごしたいという思いが非常に実感しやすく、どのような医療・介護の提供の仕方がその患者さんにとって最も良いか考えられる場であると感じました。

また、幡多保健所で研修する機会もいただき、保健所の役割と医師や病院との連携、保健所の医師の仕事、地域のために保健所が何をしているのかを講義していただいたことは他ではなかなかない貴重な経験となりました。

沖の島へき地診療所では、花崗岩の断崖や急斜面が多い沖の島の石段を実際に自分の足で歩くことで、患者さんにとって診療所への道のりがいかに大変であるかを実感しました。また、島民が年々少なくなっている中で、診療所やその待合室が地域のコミュニティの一つであることが分かりました。ただ診察するだけではなく患者さんと会話を重ねることで診療所が地域に密接していることを感じられました。

渭南病院は、大井田病院からさらに南に車で1時間程度かかる地域にあり、交通アクセスの観点から見るとまさに孤立しているようなところでした。そういうところだからこそ、急性期から在宅まで全て診ていかなければならないという院長先生の考え方に触れられて自分の中の地域医療に対するイメージが変わり、さらに明確なものになりました。街全体を病院と考えて医療を提供するといった考え方は目から鱗でした。退院先である自宅でも介護

保険を利用する患者さんは多いのですが、医療と介護は全く別なため、介護スタッフにも医療の知識を教え介入することで、自宅でより安全に過ごすことができるということも教えていただきました。

外来では定期の薬をもらいに来た方から救急搬送された方まで幅広く診療させていただきました。私は普段救急外来しか担当していないため、一般外来での診療の仕方や処置を学んだり、外来患者の経過を見ることができ、非常に充実した時間を過ごすことができました。地域の方の健康を守るため、いかに患者さんに病院に来てもらうか、侵襲のある検査をいかに苦痛を少なく行い定期的に検査を受けていただくようにするか、というところまで考えを至らせることが必要だということも学びました。

今回の研修を通して、地域医療は、ただへき地にある病院あるいは診療所で病気を診るだけでなく、患者さんの生活まで考え地域全体を診る必要があることを改めて感じ、それを実現するためには自身の専門外の知識であったり、保健行政との円滑な連携が求められることを学びました。しかし、地域医療とは何ら特別なことではなく、当たり前の診療をしているだけということも教えていただきました。また、昨今地域の医師不足が叫ばれていますが、実際に自分の目で見ることでその事態の深刻さと、地域で熱い思いを胸にご尽力されている先生方や医療スタッフの方々のおかげで現在の地域医療が成り立っていることを実感しました。

最後になりましたが、私を温かく迎えてくださり指導していただいた大井田病院、渭南病院、沖の島診療所の先生方や病院スタッフの方々、事務の方々、地域医療研修の機会を提供していただいている高知医療再生機構の方々に感謝申し上げます。